

鹿児島市立桜島学校 校長 徳田 清信 さん



初代校長と桜島学校 校章
八つの桜の花びら8つの学校がひとつになって、
太陽のように一つの花が咲く

今年4月、鹿児島市で初めての義務教育学校「桜島学校」が開校しました。新校舎完成までの1年間は、旧桜島中学校の校舎で、全学年の児童生徒が学校生活を送ります。

開校してまだ3か月ですが、鹿児島市で初となる義務教育学校経営への思いなどを、徳田清信初代校長に伺いました。

年（中学1年）を「レッドステージ」、8年・9年（中2・3年）を「ブルーステージ」としています。

桜島地域の小・中学校を一つに統合されるにあたって、どのような取組をされましたか。

地域の思いを受け継ぎながら、新しい教育のかたちを創造するために、「桜島地域における義務教育学校整備検討委員会」を30回以上実施しました。また、児童生徒・職員・保護者・地域とともに学校行事等について意見を出し合うワークショップを開催するなど、学校・家庭・地域が一体となって新しい学校づくりに取り組みました。

前期課程（小学生）98人、後期課程（中学生）65人、職員32人、PTA戸数108戸です。

本校は、9学年を3つのステージに分けています。1年〜4年を「グリーンステージ」、5年〜7年（中学1年）を「レッドステージ」、8年・9年（中2・3年）を「ブルーステージ」としています。

「唯一無二の存在感」

「人々を魅了する荘厳な姿」、「雄大さと美しさ」、「安定感のあるたくましさ」であると思います。

目指す人づくりは、まさに桜島だと考えました。

学びの「コンセプト」を、「桜島をまるごと学び舎」として、具体的なにはどのようなことですか。

桜島学校では、桜島全域を学びのフィールドとして捉え、桜島学校を学びのプラットフォームとして学べるよう環境を整えていきたいと考えています。

新校舎は、児童生徒の教室や特別教室はもちろん、桜島公民館など、社会教育施設等が併設されます。桜島学校は、桜島地域に住むすべての人々の学び舎であり、子供から大人まですべての人々にとっての学校として、新たな学びの拠点となることを願っています。

ワークショップの中で、「失敗の日」をテーマにあげています。どのような意図がありますか。

失敗させない教育ではなく、安心して失敗ができる場を作りたいと思います。

「桜島を言葉で表現すれば、桜島を言葉で表現する場を作りたい」と思っています。

子供たちは、失敗を繰り返しながら成長していきます。失敗から学んで挑戦する子供になってほしいと考えています。

教育目標「ワクワク、イキイキ、ノビノビ学んで、みんなのニコニコがいっぱいの学校」にはどのような思いが込められていますか。

児童生徒がワクワク学べるような仕組みを準備し、仲間と共にイキイキと関わりながら、9年間のスパンでノビノビとそれぞれの個性の伸長を図ってまいります。

そして、児童生徒だけでなく、教職員や保護者、地域の方々のニコニコが、いっぱいの学校にしたいと思っています。

開校して3か月が経ちましたが、子供たちの様子はいかがですか。

クラスメイトが増えて、これまでできなかった集団での活動や行事が増えたことを喜んでいますが、競争心も出てきたようです。

ステージごとの活動や縦割り活動にも進んで取り組んでいます。

前期課程の教科担任制や3つのステージ担任制など変化はありましたが、大きな混乱もなく柔軟に対応できていると思います。

保護者からは、「環境の変化に戸惑ったが、楽しそうに学校生活を送っているようで安心してい

る」という声がありまし

た。

新しい校章や校歌に対する反響はいかがですか。

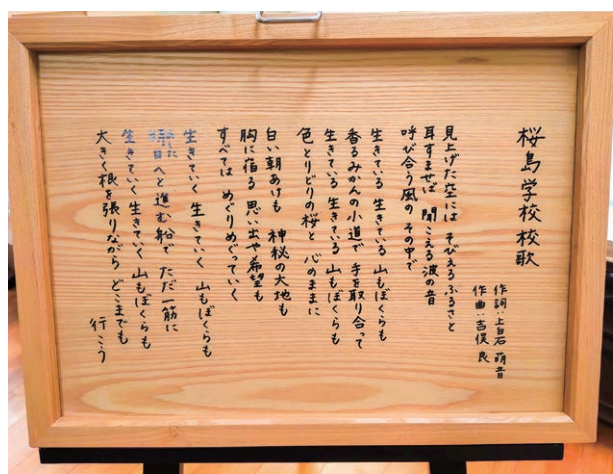
子供たちは、開校前から新しい校歌を楽しみにしていた様子で、開校式から大きな歌声が響き渡っていました。

地域の方々は、「桜島学校」へどのような思いを寄せられていますか。

「桜島学校」は、地域の方々の「地域の学校を一つにし、子供たちの教育環境を整えたい」という強い思いから創設されました。検討委員会から、学校・家庭・地域が一体



学校名と校章



鹿児島市立桜島学校 校歌（上白石萌音さん直筆）
作詞：上白石萌音さん 作曲：吉俣良さん